



社会福祉法人クローバーは戸塚区内で活動していた4つの地域作業所(運営委員会)が集まってできた社会福祉法人です。

その中でも特に歴史のある二つの事業所、最後まで古き良き、地域作業所の面影を残していた事業所が一つの事業所になり設備も環境も充実し、使いやすくなって2016年夏、再スタートしました。

# 生活介護事業所クローバー

旧フロンティア  
旧であいの里

深谷町の閑静な住宅街、深谷小学校と消防訓練学校の間に建つ新しい事業所クローバー。そして建物の周りにはピワ、ゆず、やまもも、月桂樹の木々。緑に囲まれた事業所では約30名ほどの障がいのある仲間たちが活動します。

活動は3つのグループ、『製菓』、『受注』、『創作』、それぞれ得意な活動を選んで参加します。利用者一人一人と面談を繰り返し、経験を重ねて決めたグループ。グループはこれからも定期的に見直しをしていきます。また、グループ単位で行事も実施していきます。小グループで活動することにより、利用者の個別の希望にあった楽しみを実施したり、より安全に配慮した活動をすることができます。バナナブレッドなどを作る製菓グループ、カレンダーやプレスレットを作る創作グループ、受注仕事をする受注グループがあります。

事業所の一階には法人の本部もあります。今までは法人本部と事業所が離れていたため、淋しいこともあり。これからは毎日、利用者の皆さんの生の声を感じながら運営していきます。

また、地域と一体となった運営、この街にクローバーがあって良かったと思っていただけるような法人・事業所作りを目指します。地域のイベントに参加したり、地域の清掃をしたり、そしてクローバーにしかできない活動を地域の人たちと一緒になって作ります。

相談支援事業所  
マロン  
戸塚区深谷町に  
あります



2003年に戸塚区名瀬町に『ゆうきの里』(男性)を開所。その後、2007年に泉区下飯田町に『いちごの家』(女性)と『みかんの家』(男性)を開所。ホームの利用希望が多く、2013年に『ゆうきの里』を戸塚区矢部町に移転をし、新たに一棟を建築、『みんなの家』(男性)、『れもんの家』(男性)、2棟連なるホームとして再スタートとなりました。

# みんなの家&れもんの家

親元を離れた生活…最初はとっても不安がっていた入居者も今では実家よりホームの方が楽しい…そんな声も聴こえてきます。

# グループホーム

(共同生活援助)

一人一人がくつろげる場所。自分のペースを大事にしながら、他の入居者のことも大事にして、仲間のために貢献できる場所。そんなホームでありたいと思っています。障がいがあるからGHで生活をする、そうじゃない、今ここで生活することが一番自分にふさわしい、だからここで、この街で生活しています。



# みかんの家&いちごの家



利用者募集中!

# Begin (生活介護 従たる事業所)

かつてBeginは戸塚駅の大踏切横に所在していました。そこは小さな一軒家でした。その頃からパン作りを始めていますが、当時はパン作りのための厨房もなく…。現在は専用のパン工房も出来、メンバーもとても生き生きとパン作りをしています。少量ですが日々フレンズショップにてお買い上げいただけるようになりました。パンの種類が増えました。

主な活動内容 作業:パンとお菓子作り、ビーズ製品制作、製品の販売、絵画



# いとぐるま (地域活動支援センター障害者地域作業所型)

いとぐるまでは、年齢層の幅広いメンバーたちが、機織(はたおり)作業をとおして、仲間意識をもち、毎日楽しみながら、仕事に取り組んでいます。スタッフもその仲間の一員です。仕事をしながら、ほのぼのとした会話が生まれて、いつも笑い声に包まれています。そんな仲間ひとりひとりが、希望をもって通っていただける事を大切にしています。個人個人の目標を設定し個人別のプログラムも取り入れています。

主な活動内容 機織、製品の販売、受注作業



# フレンズショップ クローバー

Beginといとぐるまの仲間たちが作り上げた個性豊かな作品たちを、施設内の一部屋を開放し、ご近所の方々や、遊びにいらして下さった方たちにお分けしています。色とりどりの機織製品や、焼きたてパンが並ぶスペースは、みんなの社会への出入口として、『フレンズショップクローバー』と名づけました。仲間たちのペースにあわせて、短時間の営業になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。1階にいとぐるま、2階にBegin。2つの施設が仲良く同居しています。休み時間や音楽療法などで交流をしています。

お店のマスコット  
『パンキー』



『支援』するってどういうことだろう…。

これで良かったのかなあ…。そんなふうに思うことは良くある。でも実はそれを確かめる方法がある。

自分がかけた言葉、自分のとった行動、その後で相手がいかに感じるか。

自分の言葉や行動の後で相手が、『自分には能力がある!』、『あなたと私は仲間だ!』、そう思ってもらえればそれはきっと良い支援だったっていえるのではないかと思う。

常にふりかえりながら支援をしていきたい。